



三光幼稚園だより 6月号

<http://sanko-kg.minato-kyo.ed.jp>

ブログ: <http://sanko-kg.minato-kyo.ed.jp/blog>

X: <https://mobile.twitter.com/sankokgyo>



令和8年4月28日
港区立三光幼稚園
園長 藤井 未知江

季節を感じる心を育む

園長 藤井 未知江

幼稚園では、子どもたちが季節を感じながら生活できるよう、日々の環境を工夫しています。現在、年中組と年長組の保育室には、園庭で見つけたイチゴや、子どもたちが夢中になって観察しているダンゴムシなどが、子どもたちの製作遊びの中でつくられ、飾られています。子どもたちは好きな遊びの中でダンゴムシを見つけては手に取り、飼育ケースに入れて生態を観察しています。「ダンゴムシの足の数は……」と数えながら友達と発見を喜び合ったり、空き箱や紙で「ダンゴムシ幼稚園」をつくったりと、身近な自然との関わりを楽しんでいます。何気ない存在であるダンゴムシも、子どもたちにとっては大切な心のよりどころになっているのだと感じます。

しかしこのダンゴムシも、少し前までは5月後半から6月にかけて多く見られるものでした。同じように、アジサイの花も本来は6月頃に咲くものという印象があります。私が学級担任をしていた頃には、6月になると子どもたちと一緒に、咲き揃ったアジサイを見て花紙や様々な素材を使った製作を楽しんだものでした。

ところが今年は、園庭のアジサイが5月中旬にはすでに美しい花を咲かせていました。今年の4月は平年よりも1.9℃も高く統計開始以来3番目となる記録的な高温となり、5月も気温の高い日が続いています。こうした変化からも、季節が少しずつ前倒しになっていることを実感します。天候は人の力ではどうすることもできませんが、四季の移ろいを感じながら暮らしてきた日本人にとっては、どこか戸惑いを覚える出来事でもあります。近年では、地球温暖化の影響により、季節のリズムが変化し、花の開花時期の地域差が少なくなることや、季節の移ろいそのものを感じにくくなる可能性も指摘されています。

だからこそ幼稚園では、これまで以上に日々の生活の中で自然に目を向け、季節を感じる経験を大切にしていきたいと考えます。これから梅雨に入りますが、雨にぬれた木々や草の匂い、雨粒の音、風の気配など、身近な自然に心を向けることができるようにしていきたいと思います。子どもたちが自然や季節の変化に心を寄せることができるよう、その基盤となる経験を大切に積み重ね、豊かな感性を育ててまいります。



園庭の園門横でイチゴ取りをする姿



5月中旬に園庭に美しく咲いたアジサイの花



子どもたちがつくったダンゴムシの幼稚園